

2023年  
1月発行

休日OK  
SAP

ほかごOK 授業OK  
サタデースクール通信

札幌市教育委員会生涯学習推進課

昨年も感染症等で落ち着かない1年でしたが、学校では、子どもたちの学びのため、様々な工夫をしながら学習活動に取り組んでいただきました。2023年卯年は「飛び跳ねる」飛躍・向上の年だそうです。1人でも多くの子どもたちが飛躍の1年となりますように！

今回は各実施校において放課後や授業で行われた活動の事例紹介と「サタデースクールインタビュー【地域編】」をお届けします。

## 事例紹介

①



### \*\*\* 放課後の理容・美容師職業体験【発寒西小学校】 \*\*\*

「ハッチャムひろば」の愛称のもと、平日放課後、地域の方を講師に、理容・美容師の職業体験学習が行われました。

プロが使う本物の「ハサミ」を使用して、初めてのカット体験（1人1台マネキンが用意されてました）。髪を切ってもらうなど多くの子どもたちが接したことのある身近な職業を体験することで、仕事の楽しさや難しさを知ってもらう良い機会となりました。

また、安全面を考慮して保護者にも参加していただき、親子皆で楽しく活動できました。



### \*\*\* 保護者懇談時の読書・折り紙体験【屯田南小学校】 \*\*\*

2年生の保護者懇談の時間を活用し、前半は読書活動、後半は折り紙を使ったクリスマスカード、紙飛行機を作成する体験活動が行われました。

講師は、地域の子ども会で活動されている方や、スクールガードに従事されている方など、子どもたちにとって顔馴染みの面々。講師の姿を見ると、子どもたちがすぐに集まって、次々と話しかけていたのが印象的でした。

そんな和気あいあいとした雰囲気の中で行われた活動は、冬休みの読書感想文の練習にもなるなど、楽しい中にもしっかりと学びのあるひと時となりました。

終盤には懇談を終えた保護者も一緒になって参加し、大変な賑わいとなりました。





## サタデースクールインタビュー：第2回「地域編」



私たち市教委職員が活動に関係する皆さんへお話を聞きました。今回は、「地域編」としてインタビューをお届けします！



コーディネーターNさん

### Q1 コーディネーターになった経緯を教えてください。

Nさん) 普段は地域の子ども会で活動しているのですが、昔から学校には色々なことで顔を出してきました。そういう縁もあって、今回学校から、サタデースクールをやるということで相談があり、二つ返事で引き受けることにしました。



保護者Sさん

### Q2 プログラムはどのように企画していますか？

Nさん) 基本的には子ども会でやってきたことを、学校の意向に合わせてやるようにしています。どちらの活動も子どものためにやっていることです。今まで取組んできたことをそのまま活用することができました。

### Q3 これまで行ってきた子ども会の活動とサタデースクールの活動で何か違いはありましたか？

Nさん) 活動の内容自体そこまで違いはないと思いますが、ひとつ嬉しい変化として、サタデースクールを通じて現役のPTAの皆さんと交流できるようになりました。サタデースクールで企画したプログラムにはPTAの皆さんにも手伝ってもらっています。

### Q4 サタデースクールに参加した保護者Sさんの感想をお聞かせください。

Sさん) 学校の中の活動なので子どもを通わせやすいですし、特に放課後ですと外に出ないでそのまま参加できるのでとても安心です。そして何よりも、地域の方との交流は子どもにとって大切な経験ですし、色々な学びに繋がると感じています。地域皆で子どもを見守っている雰囲気が嬉しくて、私たちも学校や皆さんの助けになればと思って参加しています。

### Q5 最後に、Nさんがこうした活動に参加する意義を教えてください。

Nさん) 子どもたちが大人になったときに、こういった体験を次の子どもたちにしてもらいたいと思っています。この経験が子どもたちの記憶に残ってくれば、どこかのタイミングで思い出して、何かの役に立つかもしれません。そういった経験は学校の中だけでは難しいことかもしれません。地域には私たちのような人がいると思いますので、地域も当事者意識を持って、学校だけではなく皆で協力できればいいと思っています。







コーディネーターFさん

**Q 1 コーディネーターになった経緯を教えてください。**

もともと学校の教員として働いていました。退職後も子どもたちに色々な体験を提供したいという思いから、学校と相談してコーディネーターとして活動することにしました。

活動を通じて今何よりも思うのが、教員の負担を軽減したいということです。そうすることで、結果として子どもたちのためになると考えています。

**Q 2 学校とはどのようにやり取りをされていますか？**

今も仕事をしているのですが、日中は割と時間の自由が効くので、その時間を活用して学校へ行って打合せや作業をしています。

ただ、学校も忙しいので、プログラム毎に担当の先生を立ててもらい、パソコンでメールのやり取りをすることがあります。学校に行ってもPTA室をお貸しいただけているので、そこで作業をするようにしています。

**Q 3 先ほど、教員の負担軽減といった話がありましたが、具体的にどのような点を意識されていますか？**

プログラムの基本的な企画はもちろんですが、講師等地域の人材を集めることや、外部との調整を私がやるようにしています。学校として、子どもたちのために色々やりたいアイデアはあると思うのですが、誰に頼むか、誰が調整するかというところで止まってしまう。そこを私が担うようにしています。

**Q 4 地域の人材を集めるコツはありますか？**

地域側としてはアンテナを張って色々な活動に顔を出すことです。そこで自然と繋がりができてきます。コミュニケーションの力は大事です。

学校としては、コーディネーターを探すのに苦労するかもしれませんが、今すでに取組んでいる活動でまずは目星をつける。その後活動していると、人が集まってきます。私の企画したプログラムでも個々に活動していた地域の人材が集まり、それがきっかけで1つのネットワークができました。

**Q 5 最後に、地域と学校それぞれの側面から見て、地域学校協働活動に期待する効果としてどのようなことがあるでしょうか。**

私が学校にいた時に思っていたこととして、本当に教員がやるべきことなのかと疑問に思うことがいくつかあったことです。コロナ禍の消毒作業も本当に大変なことで、地域にお願いできないかと何度も考えました。先ほどもお話ししましたが、子どものためにやりたいことはいっぱいあるのですが、「誰がやるの?」、「誰にお願いするの?」で止まってしまう。

そういった時に、地域学校協働活動というお願いのできる「受け皿」があることで、学校も色々なことに取組める環境が作られます。ここでのネットワークが地域やPTAにしても、自分たちのために横の繋がりとなって、色々な活動に発展できます。まさに学校を核とした地域づくりではないでしょうか。

インタビューに御協力いただきました皆様、ありがとうございました。



事例紹介

②



\*\*\* 6名の地域人材によるキャリア教育【星置中学校】 \*\*\*

2年生の教育課程内において、地域で働いている6名の方を講師に招き、キャリア教育が行われました。集まったのはスーパー店長や幼稚園園長、簡易郵便局長、農家や事業所の社長に元校長先生と様々な業種の方たち。

身近で活躍する「地域の大人」の話しに、生徒たちは、働く喜びや、やりがい、苦労話などをより現実味を感じながら聞くことができた様子でした。

また、普段自分たちを支えてくれている地域の方々へ感謝に繋げる良い機会となりました。講師の方たちも、愛着のある地域の子どもたちと話せたことに、「私たちも楽しみながら参加できました。」と言っていたのが印象的でした。

今回、講師を集め、打合せ等のやり取りをしたのは、地域のコーディネーターです。学校の負担軽減に役立つ取組事例でした。



\*\*\* 開校150周年企画「先輩」によるキャリア教育【手稲東小学校】 \*\*\*

6年生の総合的な学習、自分達の夢を考える「夢に向かって」の一コマを活用し、卒業生でミスユニバース世界大会準グランプリの方を講師に招き、キャリア教育が実施されました。

講師の方はコンテスト等で輝かしい実績を持っていますが、小学生の時に負った目の障害を抱えており、たゆまぬ努力の結果、大切な夢を実現させることができました。明るく話すその姿は、子どもたちにとって大きな希望となった様子でした。

また、「先輩」の話は、自分達にとってより身近なものとして実感できたようで、夢は実現できると思える大切なひと時となりました。



本事業に係るご相談・お問い合わせは  
**札幌市教育委員会生涯学習推進課** まで  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目STV北2条ビル4階  
 電話 011-211-3872 FAX 011-211-3873

